

オキドキニュース 三月号



二十四節季

啓蟄(けいちつ)
春分(しゅんぶん)

三月六日 冬ごもり中の虫が目覚まし姿をあらわす。
三月二十一日 昼と夜の時間が同じ。

節分祭

二月六日(土曜日)、一階デイルームに於いて、『節分祭』を催しました。
今年も職員から鬼の役を公平に選ぶために、ジャンケンをして負けた職員の二名が鬼になることになりました。

負けた職員二名は、赤鬼、青鬼の衣装に着替えて、ご利用者の前に登場して、ご利用者の皆様に「鬼はそと、鬼はそと、福はうち、福はうち」と紅白玉を投げ、鬼たちは外に退散しました。



持ち物には「お名前」を記入下さい！

施設に衣類などお持ちになる場合、他のご利用者様の衣類などと間違いがないように、必ずお名前を記入されるようお願い致します。また、「フルネーム」での記入もお願い致します。



3月25日 昼食に提供



写真はあくまでイメージです。

麵食いめべり(天ぷらそば)

天ぷらそばの出会

おそば屋さんの定番メニューのひとつ「天ぷらそば」。そんな「天ぷらそば」は、どのようにして一般的に普及していったのかご紹介します。

天ぷらの歴史は様々な諸説があるようですが、一四三年頃、種子島にポルトガル人が来てから伝えられたのが始まりのようです。

天ぷらの語源にも諸説ありますが中でも多いのが、ポルトガル語のテンペーロ調理する。スペイン語のテンプロお寺を意味する。中国から伝わった「天麩羅(あぶら)」を読み違えた。という説があるようです。

庶民が天ぷらを食べるようになったのは、江戸時代前期の頃からです。その頃は、屋台の「天ぷら屋」が江戸前の穴子、芝海老、こはだ、貝類などを串に刺して天ぷらにして出していたようです。天ぷら屋と同じ時期、蕎麦屋も屋台で「風鈴そば」と言いつて、屋台の蕎麦屋が来ると風鈴を鳴らしていたようです。たまたま屋台の天ぷら屋さんの隣に風鈴そば屋が来て、屋台でかけそばを買ったお客が、隣の天ぷら屋から天ぷらを一つ買ってそばにのせたところ、そのあまりの美味しさに噂が広がり、食べるようになったようです。

「不要な品はお持ち帰り下さい。」

当施設は、限られた居住空間の中で、ご利用者の皆様に「ご利用いただいております、床頭台以外の場所に衣装ケース・荷物等を置かれまますと、ご利用者様の移動の妨げや、ベッド周辺が不衛生になるなどの問題が生じます。このため、「必要以上の荷物の持込み」はご遠慮下さい。

また、ご使用にならない「衣類」「クラブの作品」など、頻繁にお使いにならない品などは、この機会にお持ち帰りをお願い致します。

ご利用者皆様の快適な生活を保つためにも、ご関係者の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い致します。



歯ブラシの交換について

ご入所中の皆様には、歯ブラシをご持参戴いておりますが、歯ブラシの毛先が広がらず、まだまだ使えそうに見えても、歯ブラシの弾力は弱くなっています。

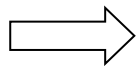
また、歯ブラシの毛が広がっていると歯垢を落とすにくくなります。歯ブラシの取り替え時期は1ヶ月に1回が目安と言われております。

ご入所中の正しい歯のブラッシングが出来ますように、ご家族の皆様には定期的な歯ブラシの交換をお願い致します。また、必ず歯ブラシには、名前をお書き下さい。

歯ブラシは定期的に
交換しましょう



新しい歯
ブラシ



交換時期の
歯ブラシ

《総務課より》

利用料のお支払いは毎月十五日までになっておりますので、ご協力ください。
尚、窓口でのお支払いは年中無休、午前九時～午後四時までとなっています。